

平成25年度第2回「学校関係者評価委員会」年度末評価報告

1 概要

(1) 日程 3月11日(火) 14:00～15:30

(2) 場所 第二会議室

(3) 出席者

学校関係者評価委員	岸保戸坂城山小学校校長 佐伯同窓会副会長(奥田同窓会会長委任代理) 金原PTA会長
本校教職員	福原校長 岩本副校長 中川教頭 八木教務部長 下木進路指導部長 森河総務部長 宮本生徒部長 黒瀬保健部長 飯盛情報図書部長 渡辺国際理解教育部長 山本入試運営部長

2 内容

校長挨拶及び出席者の紹介に続いて、中間評価時の継続課題であった「自己評価」の客観性を高める「評価指標」の在り方について、教務部、進路指導部、国際理解教育部、情報図書部を中心に「評価指標」に基づく年度末自己評価について説明した。

(1) 教務部として

- ① 課題を通じた能動的学習に向けた方策について
- ② 授業評価の改善及び円滑な実施について
- ③ 教科書や副教材販売の確実な実施について

(2) 進路指導部として

- ① 生徒が高い志、強い意志を持った受験ができるように全教職員が情報共有した上で、意識的に声かけをすることについて
- ② 旧帝大など難関大学15名、広島大学30名、早慶上理50名、関関同立100名以上の合格実績を目指す手立てについて
- ③ センター答案練習会を積極的に活用できたかどうかについて

(3) 国際理解教育部として

- ① イギリス短期研修派遣（高校生）について
- ② 長期留学生の受け入れについて
- ③ オーストラリア・勸告短期研修（中学生）について

(4) 情報図書部として

- ① 各教室等において積極的にICT機器を活用した授業展開について
- ② 情報モラル教育（生徒・保護者）の進め方について
- ③ 施設改善等も含めた図書館の在り方について

3 学校関係者評価委員からの質問・意見及び助言

- ① 「学習の記録」を持たせているが、その活用の仕方が保護者に十分に伝わっていないのではないか。
- ② 大学入試についていわゆるAO入試や推薦入試を利用して大学に進学する生徒の割合はどのくらいか。
- ③ 医学部やいわゆる難関大学と言われる大学においても、こうしたAO入試等を採用している学校が増えている。自分の子どもも10月中旬にこうした入試制度で合格し、その時点では小論文などががんばったと評価しているが、一般入試で大学に入った人と比べると大事なしんどい時期を経験しないで大学に進学したという印象を持っている。みんなが頑張っている時に浮いたような学校生活を送ったような印象を持っている。
- ④ 「志望動機書」はどのようにして書いていくのか、また「プロジェクター」などはどの程度設備が整っているのか。
- ⑤ 昨年スピーチ・コンテストを始めて拝見して、非常に感動した。最初は高校生だと思っていた。国際理解教育に力を入れておられるのは評価するが、説明の中にあつた留学生が6か月の滞在予定を2か月で切り上げて帰国したのは、メンタルな問題があつたのか、自分の経験からすると人的な交流などが原因になったこともあるのだが、学校としてはどのように把握し

ておられるのだろうか。

- ⑥ 長期の留学生が単位を取得するために帰国したということだが、幹旋団体もその辺りは事前に把握していなかったのだろうか。
- ⑦ 大学入試も大切なことはもちろんだが、課外活動やクラブ活動にも関わるが、体を鍛えたり、脳を刺激するようなクラブ活動もあるし、そういった体育部や文化部の活動を評価されることはあるのだろうか。
- ⑧ 公立小学校の校長としての話にはなるが、城北がどのような学校であるかということはある程度理解をしているつもりだが、さきほどの「志望動機書」にも関わってくるが、小学校で「夢」を持ってと言っている。「夢」をどうやって「志」に高めていくのか、ということを考えている。私はどんな人になりたいのか？だからこの大学に行きたい、だからこうする、そして〇〇になって、例えば医師でも良いがどんな医師になるのか、医師になってどういうことをしたいのか、というところまで先を見越した考え方が大切だと思っている。例えば医師になって大金が入るならば、それを使って困っている人のために使う、というようなところまで意識を高めていくことが大切である。学校は予備校ではないのだから、人間教育が大切である。人間をどう育てるのか、ということが必要だと思う。目先のことにとらわれすぎず、城北を卒業した生徒は〇〇〇のような人間になっている、ということが言えるようになることが大切である。時には生徒や保護者にアンケートを取るなどして、実際の数値を出しながら評価をしていくことが大切であると思う。「手段」と「目的」があるならば、大学は手段であって、目的ではない。

4 今後の課題

- ① 「学習の記録」を書くことが生徒と担任の具体的な交流に繋がることで、学年が上がるにつれて自分を見つめ始める生徒も増えるなど、一定の成果を上げていることは確かだが、今後は保護者にもこうしたことを利用して自己実現に向けた教育活動を展開していることをご理解いただける機会を設けていきたい。
- ② 年間指導計画の中に「志望大学を探す」というシラバスを設けている。高2であれば大学研究をするなかで、内容を絞り込んでいこうと指導している。理想の大学、現実的な大学等を具体的な中身にまで踏み込んで調べ学習をする。学部や学科でネーミングが違くと入学して学ぶ内容がどのよう

に違うのか、なぜそこに行きたいのか、を自分で考える姿勢をさらに育て

ていきたい。

- ④ 特別教室には大型テレビやプロジェクターを設置しているが、普通のHR教室には設置していない。小学校のほとんどが各HR教室にテレビや教材提示器が備え付けてあると聞いている。そうした意味では本校に進学してくる中学生の中には、ある意味でカルチャーショックを受けている生徒もいるのではないかと思っている。今後すぐに施設・設備を備えることはできないが、そうした環境で育った生徒たちが中学生になっていることを教員が共通認識をもって対応や授業を工夫することは大切だと思う。
- ⑤ 今回の長期留学生の突然の帰国は、メンタル問題でも人間関係でもない、と把握している。本人の判断でその期間に帰国しないと進学に必要な単位が取得できない、というのが理由であった。幹旋団体もそのことを把握しておらず、急な帰国ということで対応に困ったことは事実である。留学生の受け入れについては、ホストファミリーをはじめ、各方面の協力があって成り立っていることから、今少し幹旋団体とも連携を密にして進めていきたい。26年度は4月から新たに1名オーストラリアから長期留学生を受け入れる予定になっている。
- ⑥ 校長としてこれまでは城北の良い所と変えるべき所をはっきりとさせる必要があった、と考えている。まさに不易と流行である。英才教育、錬身教育といった建学の精神を教職員が共通認識とするべきだと思うし、堅持すべき事柄は残しそれ以外は変えていくべきだと思う。ベクトルを同じにして学校の目標に向かうことが大切である。学力向上も大事だが、心の教育にも光りを当てなければならない。校長としてうれしかったのは、学力を伸ばすことも大事だが、生徒が中心になる学習活動が大切だという認識で動いてくれていることである。全体を上げることによって、力をまだ十分には発揮できていない層の生徒たちも上がっていくことに繋がる。部活動が生き甲斐になっている生徒もいる。しかし、最後は出口のことも大切なことである。そのバランスをとることが必要だと思う。課題も山積しているのは事実だが、これからその辺りをスパイラル方式で良くしていきたいと思う。本日は貴重

なご意見やご示唆をいただきありがとうございました。